

北秋田市長 津谷永光 様

要 望 書

(森吉山一帯の国立・国定公園昇格の推進について)

北秋田市山岳協会

会 長 金沢 聡

NPO 森吉山

理事長 片岡信幸

NPO 森吉山四季美湖

理事長 米澤 訓

NPO 森吉山ネイチャー協会

理事長 宮野貞壽

<連絡先>

2023年(令和5年)2月24日

＜要望主旨＞

（森吉山一帯の国立・国定公園昇格の推進について）

●森吉山県立自然公園の昇格運動は、自然保護団体の要請によって、国土計画(株)が森吉山山頂部スキー場開発断念(1990年)を表明したことで、秋田県が「自然環境の保全優先を求める県民世論と観光振興を両立させる構想」として「国定公園化」という方向性を旧森吉・阿仁町に示し、自然保護に舵を切ったことが始まりです。

国定公園化の要望を受けた旧森吉町は議会の了承を得たが、旧阿仁町は山頂部スキー場開発を求める声を説得できず、昇格は一旦棚上げとなりました。

●2003年以降、環境省は地方分権に伴う「三位一体改革」で、都道府県立自然公園の整備費補助金を廃止する代わりに、地方が行う国立・国定公園の整備を支援する自然環境整備交付金等を創設するなど、国立公園の新規指定や分割、都道府県の役割分担の見直しを進めてきました。

●2014年以降、北秋田市議会では再度国立・国定公園昇格への議論が始まり、県議会でも昇格の優位性を問う議論が活発化。北秋田市は市議会等の要請に応え「森吉山県立自然公園公開セミナー」を開催(2017年)したが、具体的な昇格表明には至りませんでした。

●2022年6月14日、環境省から時代を一気に飛び越える朗報が発表されました。ご承知のとおり2010年に公表した「国立・国定公園の新規指定・大規模拡張候補地を示した国立・国定公園総点検事業」(以下総点検事業)のフォローアップを実施し、新たな大規模拡張候補地(4地域)の一つに、八幡平周辺(森吉山、真昼山地、田沢湖等)を「国立公園区域の拡張又は国定公園の新規指定候補地」に選定したことです。

この環境省の方針は、生物多様性を守るため、2021年のG7サミットで約束した、2030年までに世界全体で陸と海の30%以上を保全する「30by30目標」に取り組むため、まずは国立・国定公園区域の新規拡張を主軸にOECD認定(里山里地、河川、森林、農業、都市や企業所有の緑地等)を含めた2つの戦略を柱とする政府達成目標が背景にあります。

●環境省は、上記総点検事業の18候補地の8候補地が未だ継続検討状態であり、その他の候補地を含めると14候補地を2030年までの短期間において完了させる必要があるとし。

・本事業は限られたスタッフで各候補地の公園区域内の地種区分の格上げや、公園

区域外の自然環境と利用状況の評価も行い拡張地域の選定にあたる。

- ・具体的な地域の範囲や地種区分についても地権者や関係機関との検討を要するが受入れ態勢が出来たところから調査に着手し、保護地区の随時拡充を進めていく。
- ・拡張地域の選定や国立・国定の区分に係る要望等は、地元自治体をとおして集約していきたい。との考えを示しています。

●今般の環境省プレス発表は、国立公園の拡張と国定公園の新規指定を選定した、地方自治体に対する呼び込みでもあります。すでに他の指定候補地では、発表直後から県知事らの歓迎コメントの発表、積極的なシンポジウムの開催、首長や市民団体らによる環境大臣への陳情が活発に行われています。

●昨年の12月19日に開催された県議会総括質疑で北林丈正議員の質問に対し、

- ・佐竹知事は、「国立・国定公園の区域や区分もあるが、まずはこの機会を逃さないように県としても国の動向を見ながら国立・国定昇格に力を入れていく」。
- ・真壁 生活環境部長は「県が音頭を取って8月に環境省から関係市町村に説明をしてもらった。調査の具体的なスケジュールはまだ示されていないが、関係市町村の意向を聞きながら連携して県の役割を果たしていきたい」。

という県としての受け入れ体制を表明しています。

●市長も12月定例会での福岡由巳議員の質問に対し「環境省も国際公約の30by30を約束したとおりに本腰を入れて進めると思う。国立・国定昇格は森吉山のブランド力向上につながるものと大変歓迎している。大変力強いアドバイスであり、思いは一緒である。としながらも、早く手を挙げればというものではない。国際公約の30by30に合致した地域なのか。各市町村を跨ぐ問題でもある。環境省は調査をしていきたいという段階。その調査結果を見守りたい」という積極性に欠けた対応が見受けられます。

●環境省の新規指定作業の肝は、既存自然公園の拡張が目的であり、多様性に富んだ森吉山一帯も広範囲に及ぶことが予想されます。

北秋田市は、この拡張計画を森吉山ブランド力向上につなげる好機と捉え、今後の利用計画を見据えた素案を早期にまとめ、こちらから環境省に提案していくことが調査の早期着手につながる対応となります。

●森吉山山域の自然環境の評価は、環境省が選定理由に示したとおり、言うに及びません。国際条約に掲げた生物多様性の保護という「新たな時代の使命を付加」した、森吉山ナショナルパークの早期誕生を望むものです。

＜具体的な要望事項＞

- ①市長は3月定例会の施政方針において、「森吉山ナショナルパーク早期誕生に向け、必要な準備を進めていく」との決意を表明されたい。
- ②森吉山昇格への醸成を図るため広報等の特集とシンポジウムを開催されたい。
- ③新たな拡張地域や公園計画について情報共有し地元の合意形成を図るため、北秋田市、市議会、北秋田市山岳協会、関係NPO法人、森吉山国立公園昇格運動連絡協議会等による「森吉山国立・国立公園昇格推進協議会(仮称)」を設置されたい。
- ④森吉山県立自然公園に隣接する新規拡張地域(保護地区)を、今後の公園利用の増進を図る観点から自然再生移行地区、景観保全地区、集団施設地区、里山里地保全地区の候補地(案)を選定したので、北秋田市の素案として環境省へ提案してくださいようお願いします。

拡張地区	土地	拡張地区の特徴
森吉山西麓	国有林 社有林	●ゴンドラ遊覧で眺める石森～森吉神社～一ノ腰まで続く西麓一帯の広大なブナの二次林はゴンドラ観光のパノラマ展望地区である。
太平洋の 全集水域	国有林	●自然公園区域外及ぶ太平洋東部から北部地域の全集水域。 ●秋田杉やブナ伐採地が天然林に見事に再生している。
打当川流域	国有林 市有地 私有地 入会地	●奥阿仁の玄関口である比立内地区を起点とする打当川流域は、マタギの里にふさわしい、里山里地の生態系を温存する未来に残すべき日本の原風景である。 ●集団施設地区の指定候補地(打当温泉マタギの湯を起点終点に、あぜ道歩道と滝めぐりシャトルバスターミナル整備、遊遊ガーデンの復活、マタギ資料館・くまくま園・内水面漁業施設を教化施設に)。
森吉山ダムと 小又川流域	国有林 国有地	●奥森吉の玄関口の森吉山ダムを起点にした、太平洋につながる小又川の流れと渓谷美は奥森吉への序章にふさわしい。
湯ノ岱地区	国有林 市有地 私有地	●湯ノ岱地区は菅井真澄の「雪の秋田寝」にも登場する歴史的保養地として奥森吉観光の宿泊行動拠点としての役割はゆるぎない。 ●第2集団施設地区の指定候補地(森吉山荘のリニューアル、野营地、白糸の滝探勝路の再整備)。

※集団施設地区(自然公園法第36条):環境大臣は国立公園について、都道府県知事は国立公園について、当該公園の利用のための施設を集团的に整備するため、公園計画に基づいて、その区域内に集団施設地区を指定するものとする。